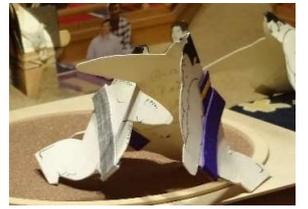


先場所の活躍で初の三役が見えてきた超刃。大事な初日、虎剛力との一番は五角の立会い防が制されたが、左差しの攻められるも粘り十分に見え、引き落としに降すと、続く二日目の剛勇山との一番では得意の左を差し相手は攻め入る隙を与えず一氣に寄り切って2連勝発進。翌三日目には新鋭の朱雀湖と対戦し、やや押されながらも相手に左を差させず右の押付けからのど輪を差し込み粘る朱雀湖を土俵の外に押し出し3連勝。三役を狙えるチャンスに視界良好で、磯ノ海親方からの期待と声援も一段と高まる。



超刃○(寄り切り)●剛勇山

三役から退いて五場所目を迎えた支那虎。初日は鹿富士と対戦し、左を差し寄り切った。翌二日目にも若手の月山と対戦して左を差され、右のど輪を決め豪快に押し倒して2連勝。三日目には大江錦と同じ中堅同士の一番となり、立会いから互いに左を伺う攻防から左差を制し全盛期を思わせる寄り切りで3連勝とした。先場所も壁に阻まれ三役復帰とはならなかったが、元大関の意地にかけてなんとしても振り返り目を指し土俵を務める。



支那虎○(寄り切り)●鹿富士

幕内には居るものなかなか上位に定着出来ない若剣。初日は五分の戦績の大江錦と対戦し、得意の右が差せず相手得意の左を許すも粘り強く、引き落としで初日を白星発進させると、続く二日目の磯原戦では得意の右を差し入れ一氣に押し倒して2連勝。三日目は角武蔵と対戦し粘る相手を得意の右攻めで押し出して3連勝発進させた。今場所は好調の様だがどこまで白星を重ねられるか？



九十九部屋から待望の入幕を果たした生駒山。初日には相撲巧者の黒船と対戦し体格に物を言わせ得意の左から力強く寄り切った。嬉しい幕内での初白星を飾ると、二日目は新入幕同士の綱嵐との一番となり互いに一歩も引かない攻防を見せ、力強い生駒山が力強く押し出して2連勝とした。



綱嵐●(寄り切り)○生駒山

三日目にはベテランの鬼ヶ嶽相手に五角の立会いを見せ、右の押付けをかわし左を差すと粘られながらも攻め続け寄り切った。新入幕の場所でも幸先の良いスタートを切った。新鋭九十九部屋からの幕内力士に親方は勿論の事、協会からも期待がかかる。

三日目までを取り終えて美空富士、春ノ翔超刃、支那虎、若剣、虎風、生駒山、磯光の全勝力士八名を先頭に、若ノ嶋をはじめとする十一名の1敗勢が追う展開となり四日目の降の中盤戦を迎える。まだ序盤戦が終わったばかりだが、優勝争いは場所前の稽古で好調さを維持し安定感抜群の美空富士を中心として展開されるであろうが、その第一人者に若ノ嶋、カド番の両大関と関脇陣がどこまで付いて行くか。更に平幕力士の動向も侮れず今場所も混戦模様となるのか。その待ち遠しい次開催は約一ヶ月先の3月17日に予定されている。(香具山)

十両は全勝二人と混戦模様

5人の新十両が誕生してフレッシュな顔ぶれが番付に名を連ねた十両の取り組みで今年初めは、龍不動、桂改め喜乃郷、若佑、響竜、雪若丸の5人だが、それ以外の今場所の明暗はいかに。2月9日に初日から三日目までを行ない、3戦全勝としたのは、照の王、太刀鳳の2人だけで激しい星のつぶし合いの3日間となった。

照の王は、先場所幕内で4勝7敗と負け越して十両への陥落が決定的となり、大関経験者が十両で相撲を取るのはいかがなものかとの声が上がる中でその去就に注目が集まったが、錦風親方から「もう一場所、復活の猶予を与えてはどうか。」との提案で十両の土俵を務めることとなった。

場所前は錦風部屋に出稽古に行き、横綱若乃嶋と連日猛稽古に励んだ。二人はかつて今では伝説となった「青木道場」で互いを「ワシちゃん、シマちゃん」と呼び合う間柄で競い合って鍛錬を積んだ盟友(青木前理事長によればワシさん、シマ公)。紙相撲界入りしてからはそれぞれ部屋での稽古が主となっていてほとんど稽古をする機会がなく、若乃嶋が横綱昇進を果たして照の王が大関から陥落して以降は本場所での対戦も見られなくなっていた。

そして、場所前に照の王が異例とも言える錦風部屋に泊りがけでの出稽古を行ない、「青木道場」時代を彷彿とさせるような猛稽古を若乃嶋と連日に亘って繰り返した。また、タニマチから新しい黄金の廻しが贈られ、心身ともに充実した万全の態勢で今場所に臨んだのである。

その成果が見事に現れてか、初日は虎ノ國を押し倒し、二日目で天我、電幕を圧倒し、3連勝を飾った。「照の王は強くなったね！優勝か？」と朝日松理事長。しかし、まだ九十九部屋、霧ヶ浜部屋などのイキのいい若手との対戦を見てみるとわからない。何と



照の王○(寄り切り)●天我



照の王○(寄り切り)●電幕



虎ノ國●(押し倒し)○照の王

か一場所での幕内振り返りを果たしてもらいたいものだ。また、太刀鳳は色鮮やかなえんじ色の廻しに替えるとともに身体を少し絞り込んだことで動きが良くなって3連勝とした。部屋の親方で理事長もまた元綱島が定年となったから師匠が替わった。しかし、蛭男はこれまで部屋付きの親方として太刀鳳の指導にあたって来ただけに、それほど大きな変化ではなかったようだ。綱島は新居の準備が整わずにまだ部屋に居て、新旧2人の師匠から指導を受けているという。綱島と出世争いをしていた火が、綱島が新入幕を果たした太刀鳳のついでに火がついたようだ。「太刀鳳には綱島と今度は幕内で出世争いをしてもいいわね！」と新友砂親方が期待を寄せる。その期待に応えられるか四日目で降が楽しみだ。

注目の新十両の5人だが、龍不動、喜乃郷、若佑の3人が2勝1敗と好スタートを切った。その中でも、龍不動への声援がひと際大きかった。新生播磨部屋として悲願の初幕内力士誕生なるか。「四国之星」の活躍に期待が高まる。



若柱●(寄り切り)○喜乃郷



若佑○(寄り切り)●響竜



龍不動○(寄り切り)●桃乃洲

十両尻で先場所引退の鞍ノ城枠で初土俵を踏んだ雪若丸。低い身長を生かして、二日目は若佑の上手投げをうまくかわしてのすくい投げで初白星をあげた。「鞍ノ城枠なのに四股名には一文字も入っていない。」という声が上がると、一方、「雪若丸ってのはいい四股名だ！」という声もあり、勝間田親方となった師匠の鞍ノ城の為にも最低でも勝ち越したいところだろう。(錦風)